

建設通信新聞

中国民間企業と業務提携

受注拡大に足掛かり

オオバ

オオバは、中国の遼寧省都市郊外設計画設計院と業務提携を結んだ。同社は2010年10月、同省の省都である瀋陽市に子会社を設立、すでに4件の受注実績がある。提

携を機に、受注できる業務の幅がさらに広がると期待している。

中国は外資系の企業に基本・実施設計を認めていないため、オオバの100%出資子

企業となっている。

同有限会社の阿部賢一総経理は提携のメリットとして、「連名にすれば基本設計や実施設計もでき、(単独では)われわれが入れないところにも入れるし、彼らも仕事が増える」と指摘する。また、外資系とタイアップすることが

条件のコンペにも対応できる。両社の役割は、オオバが斬新で先進的なアイデアを提供、設計院が法律面などをカバーする。

受注活動だけでなく、技術者の交流にも取り組む。測量や環境調査、インフラ設計などを対象に、設計院からオオ

バに技術者を派遣して研修を受ける。オオバから研修に送り込むケースも想定している。特許技術などを中国に売り込むなど、技術資源の有効活用も視野に入れている。

提携は包括的なもので、個別の案件は別に契約を結んで進める。